

## 行脚を通して伝わる 「神仏の慈悲」

《前号の続き》

高野山の大門で、まさに仁王立ちしている仁王像は、江戸時代の仏師康意運慶により彫り上げられたという仏像だそう、見るからに凄まじい形相で、今にも動き出しそうな仁王像。「色々な方の、願いや魂が入っているなあ…」そんな事を思いながら、私はその仁王像の前で、一心に「人類の平和」を祈った。皆さんも高野山に参詣の際は、足を運んで頂きたいと思います。

さて、大門から高野山の町の方を眺めていると、左手に「つくも」という、釜飯が売りの食堂が目にとまった。「つくも？」何か聞いたことがあるぞ…「アツそうだ!」。真成寺でパソコンを開いている時に、「高野山の「つくも」という食堂の釜飯がお勧めですよ」なんて、口コミの書き込みがあったのを思い出した。お腹の空き具合は半端じゃなく、これも神仏様に導いて頂けたのかなあ…?と感謝し、お昼を頂くことにした。

時刻は14時少し前だったと思う。

お店には、お客さんは誰もおらず、「いらっしやいませ〜」と出てきた店員のおばちゃんに、「ちよつど良い時に来られたわ」。今の今まで、満員で混雑していたのよ〜」なんて言われて、「超ラッキー」なんて心の中で叫んでいた。

この時期はやつぱり「山菜釜飯」でしよつてんで、注文すると、やはり一番よく出るのが、山菜釜飯と地鶏釜飯だとか。(笑)。

注文してから、待つことだったの3分。あつと言つ間に山菜釜飯定食が運ばれてきた。

「早いね〜」。「調度今炊きあがつたところだったのよ」と。食べてみると、味は勿論「美味…」空きつ腹に染み入るあの味は忘れられません。今日まで1日朝と夕の2食だったせいもあつて、全部平らげると、お腹がパンパンになった。

「おいしゅうございました」。「あなた様はどちらからお見え?」。

「私は富山県から来ました」。

「あら、遠くからようこそ起こしにしました」と、おかみさんとしぼし会話をお話し、「それじゃ失礼します」と店を出ると、「これを持って行きなさい。元気が出るから」と言つて、《あずきキャラメル》を一箱手渡ししてくれた。

「有り難うございます」。

「いいいえ、道中気をつけて行つたらつしや〜い」と、姿が見えなくなるまで見送つてくれた。この旅も段々、人の温かみを感じる旅になつてきたようだ。本当に有り難く、感謝しました。

さて、本日残すところあと1ヶ所。高野山のアクセスマップに記載されている最後のポイントは、『徳川家墓石』という場所だ。言わずもがな事だけど、そこは徳川家康が眠る墓石だ。再び御題目を唱えながら墓石までやつてきた私は、その墓石の前で「国土安穩・万民安樂」を願つてお経を唱えました。

やれやれ今日の日程も、何とか完了した!よし、宿坊に戻つて、今夜はユツクリ休もうと思つて、帰ろうとしたその瞬間! ポツポツ! ザザーッと、急に雨が降り出した。

「ウワァ〜雨がぁ〜もう少し待つてくれたら助かつたのに、タイミングが悪いなあ…」なんて事を思いながら、墓石入り口の、道路に面した軒下で雨宿りをすることにした。

しばらくポーツと雨宿りしていたが、なかなか止みそうにない気配。「こつしていてもしょうがないかあ…」。少しくらい雨に濡れても大丈夫。走れば何とかなるか!と、走り出そうとした時、「ザザザーザー」と、

更に雨脚が激しくなつてきた。

雨が地面を叩きつけ、地面からの跳ね返りの雨が、私のくるぶしまで濡らしていく様な状況だ。そして道路の残雪が体の芯まで凍りつかせていく。立ち往生しながら、「ウウ寒い!でも動けない!」。

ここは御題目を唱えて体を温めようと、大きな声で「南無妙法蓮華経。南無妙法蓮華経…」と唱えはじめた。御題目を唱えていると、ふと目に飛び込んできたのが【日蓮聖人旧跡】と彫り込まれた石塔。

ここは高野山、空海上人の総本山です。「日蓮聖人…?」一瞬間のことか理解出来なかつた。

「日蓮聖人と縁の土地が、高野山の山内にあるの?えつ?でも高野山の案内マップや、パソコンのインターネットで調べた時も、そんな情報はどこにも紹介されていなかったぞ…」見間違いかな?と思つたほどです。

そんな半信半疑な気持ちで、道路の向こう側にある石塔に駆け寄り、奥の参道へ目をやると、『南無妙法蓮華経』と彫り込まれた大きな石塔が建っているではありませんか!「エツ!なんで?」

何かキツネにでもつままれているような気分で、本当に不思議な気持ち

ちだったが、一方で嬉しくなってきた、更に御題目の石塔に駆け寄ると、そこから更に上の方にヒツソリとお堂が建っていた。そのお堂には【五坊寂靜院】と掲げられ、お堂には鍵がかかり、入堂することが出来なくなっていた。取り敢えず、お賽銭を入れ、お堂の前でお経を唱えさせてもらった。

お経が終わり、当たりを見渡すと、『南無妙法蓮華經』の石塔付近に、小さな家が見えた。もしかして、このお堂を管理している人か、何かご存じの方が住んでいるのかもしれない…と、その家を訪ねた。

「こんにちわ。どなたかおられますか？」  
「はい」と返事があって、出て来られたのは、見るからに恰幅の良い、作務衣を着た中年の男の方だった。

私は、高野山の僧衣ではなく、日蓮宗の僧衣を身にとっていたので、見慣れない？その格好を見て、その方は、私を、いぶかしげな顔で見ている。

「突然お邪魔してすみません。実は私、日蓮宗の僧侶ですが…」と名刺を渡してご挨拶をしながら、「そちらに『南無妙法蓮華經』の石塔が建っていたものですから、このお堂を

管理されている方ではないかと、お尋ねいたしました？」と申し上げました。すると、「…そうでしたか、近年、日蓮聖人を信仰している、新興宗教団体がちょこちょこ来るもんだから、もしかしてそういう人かな？」と疑っていました。これは失礼しました。私は高野山の僧侶で、五味と申します…」と応じてくれました。

この五味上人、『金剛峯寺』に山務する僧侶で、この家には五味上人の家族が住まいし、『五坊寂靜院』を管理するよう任命されているとのことでした。そして話が進んでいく内に、お互い意気投合しました。五味上人が「せっかく来られたんだから、お堂の鍵を開けましょうか？」と、お堂を開放してくれることになりました。

お堂の中に入ってみると、中央にはお釈迦様ではなく、大日如来様や不動明王神などが祀られており、向かって左手に日蓮聖人が、そして右手には鬼子母尊神様が祀られていた。

私は心静かに、お線香とローソクを灯して、しばし読経をさせて頂いた…。読経が終わると、五味上人はお客様を待たせながらも、私との立ち話が始まった。

「人類の平和を祈っている。我々僧侶は、その為に何が出来るのか？何をし

なければいけないのか？」等々…。互いに意気投合し、話が尽きることなく結局1時間くらい話を続けた。私にとって五味上人との出会いも、有り難かったです。

最後に「お互いの信念の為に頑張りましょう」と、固い決意を誓い合い別れた。

考えてみると、こんな有り難いご縁もなかなか巡り会えるものではないと思いました。もしあの時、雨が降り出さなかつたら、立ち往生することもなかつたでしょう。立ち往生させられたお陰で、石塔に気がつくことが出来たのですから。今回の事も、仏様が導いて下さったのは間違いないと思います。

ご縁や、巡り合わせというのは、本当は、至る所にあるのかもしれませんが、ただ、こちらが真剣に求めていないと、良いご縁も、仏様に繋いで頂けないのではないのでしょうか。有り難いご縁に導かれる為にも、私達は真摯に法華經を生きるよう、努力しなければいけないものと改めて確信致します。

次号へ続く…

合掌 副住職 谷川寛敬

## 11月20日 ちんくイブ



問一  
ボールの中に入っているのは空気が、浮き輪の中に入っているのは？

問二  
おひな様の問題です。  
三人官女の真ん中の女性は、どうして座っているのでしょうか？

先月の答え

問一 カレー味

問二 カビない「花瓶（かびん）」